

前提条件の補足説明資料

1. 「再資源化等預託金預り収入」の台数の考え方

予算作成時の考え方

年間の新車販売台数・車検台数等について単純に月割して算出。

補正案での考え方

新車販売台数や車検台数について、季節要因を考慮して修正(第4回資金管理業務諮問委員会における台数前提と同じ考え方)。

預託時点	予算書				補正案			
	1月	2月	3月	1~3月計	1月	2月	3月	1~3月計
新車購入時	約50万台	約50万台	約50万台	約149万台	約39万台	約52万台	約82万台	約173万台
継続検査時等		約261万台	約261万台	約523万台		約284万台	約453万台	約737万台
引取時	約34万台	約34万台	約34万台	約102万台	約22万台	約27万台	約74万台	約122万台
合計	約84万台	約345万台	約345万台	約774万台	約61万台	約362万台	約608万台	約1,032万台

2. 再資源化等預託金、情報管理預託金の平均単価の考え方

予算作成時の考え方

自動車製造業者等から再資源化等預託金が発表されておらず、情報管理料金も決定されていなかったため、再資源化等預託金については2万円、情報管理料金は125円と想定。
エアコン、エアバッグ類の装備率については100%と想定。

補正案での考え方

預託の方法(新車購入時預託、継続検査時等預託、引取時預託)ごとに、自動車の車種・車齢別の台数を算出する。
自動車の車種は8区分(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車、普通貨物車、小型貨物車、軽貨物車、普通バス、小型バス)に分ける。
車種・車齢別にASR料金、エアバッグ類料金、フロン類料金を算出し、エアコン・エアバッグ類の装備率及びの台数を乗じて車種・車齢別に再資源化等預託金を算出する。
下図の平均単価は、いったんこのように預託方法別、車種・車齢別に算出した再資源化等預託金の合計を全体の台数で割って算出したもの。
装備率については、車種・車齢別の実績データから算出。

【車種・車齢別台数の算出方法】

1. 新車購入時預託 : 車種別自動車台数は、上記1.の台数を車種別構成比(平成15年度の新車実績)に基づき按分して算出。
2. 継続検査時等預託 : 車種車齢別の残存率実績(平成14年度)から算出した車種・車齢別の保有台数と車検有効期間(乗用車/軽乗用車(新規3年、継続2年等))から算出。
3. 引取時預託 : 車種車齢別の残存率実績(平成14年度)から算出した抹消登録台数(車種車齢別)の構成比に基づき上記1.の台数を按分して算出。

【車種・車齢別平均単価の算出方法】

1. フロン類料金 : 「普通バス」「小型バス」「バス以外」の3区分とし、これら3区分につき各社の発表した料金をメーカーシェアで加重平均して、車種・車齢別に算出。
2. エアバッグ類料金 : 車種ごとの装着個数実績データ等から装着個数を推定し、この装着個数とメーカーごとの装着個数別の料金及びメーカーシェアを基に、車種・車齢別に算出。
3. ASR料金 : 保有自動車データ等から車種別の平均車重を推計し、各メーカーが発表している代表車種におけるASR料金と車重の関係を踏まえて算出。

	予算書作成時	補正案(注1)	
		再資源化等預託金預り収入対象車両	払渡し対象車両
再資源化等預託金平均単価	2万円/台 (ASR・エアバッグ類・フロン類合計)	ASR:約6,300円/台 エアバッグ類:約2,200円/台 フロン類:約2,100円/台	ASR:約6,000円/台 エアバッグ類:約2,000円/台 フロン類:約2,100円/台
装備率	エアバッグ類:100% エアコン:100%	エアバッグ類:約53% エアコン:約92%	エアバッグ類:約21% エアコン:約88% (注2)
情報管理預託金平均単価	約125円/台	130円/台	130円/台

(注1) 預託金預り収入の対象となる車両と払渡しの対象となる車両で車種の比率が異なるため、ASR料金、エアバッグ類料金が異なっている。

(注2) 払渡し対象車両における装備率は、使用済自動車全体におけるエアバッグ類、エアコンの装備割合。

3. 「再資源化預託金等払渡し支出」の台数の考え方

予算作成時の考え方

新車購入時預託、継続検査時等預託された自動車は、今年度中に使用済自動車になることは想定しにくいことから、引取時預託を行った自動車の一部が払渡しの対象となると想定。具体的には、1月前半中に引取業者が引取った使用済自動車に係る再資源化等預託金が今年度中の払渡しの対象となると想定。

1月に引取業者が引取る使用済自動車の台数については、新車購入の際に使用済自動車が発生すると想定し、新車販売台数の実績をもとに算出(13.4万台)。今年度に引取られる全ての使用済自動車にエアコン、エアバッグ類が装着されていると想定。

補正案での考え方

予算作成時と同様に、引取時預託を行った自動車のみが使用済自動車となり払渡しの対象となると想定。

預託金の払渡しにあたっては、資金管理センターは、メーカー等による特定再資源化等物品の引取報告がなされた月の翌月に請求を受け、同月に払渡しを行うこととなっている。そのため、今年度の予算に計上される払渡し支出の対象台数は、2月末までに引取報告が行われるもの。

引取業者による使用済自動車の引取報告からメーカー等によるASR・エアバッグ類・フロン類の引取報告までの日数については、遅延報告期限及びフロン回収破壊法における回収実績を勘案して、最短・中間・最長の3ケースを想定。

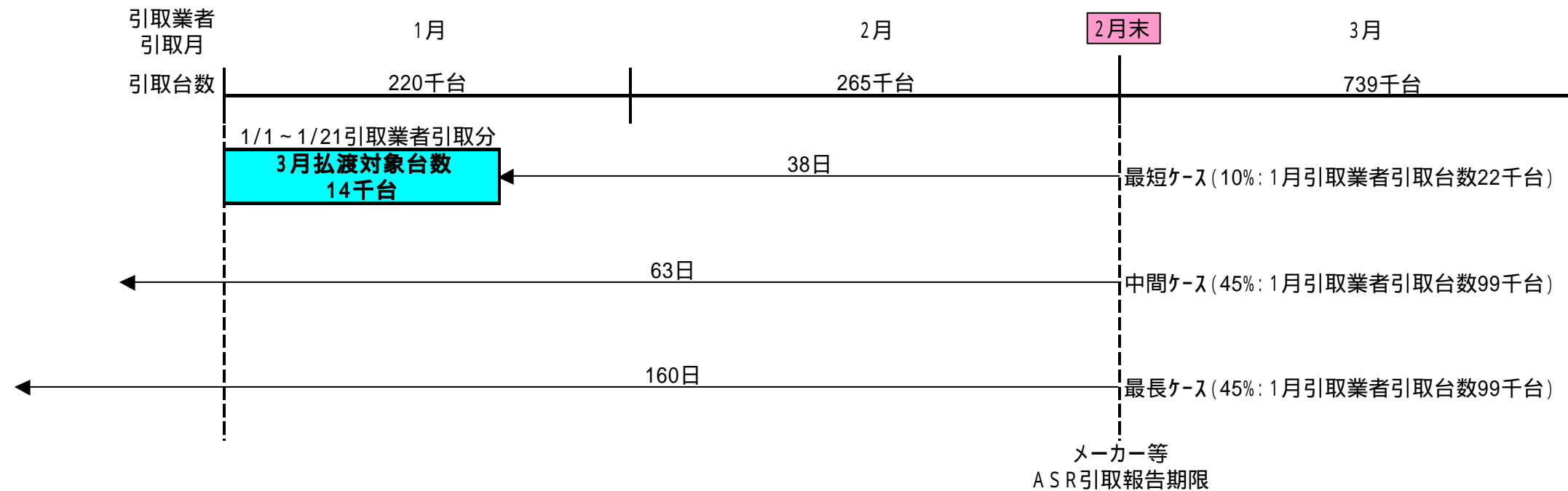
2月末までにメーカー等が引取報告をするためには、いつまでに使用済自動車として引取られていけばよいかについて、2月末から日数を逆算して算出。使用済自動車におけるエアコン、エアバッグ類の装備率は、実績データからそれぞれ88%、21%。

引取業者による引取報告から再資源化預託金等の払渡し請求に必要な移動報告までにかかる日数(詳細は参考資料2参照)

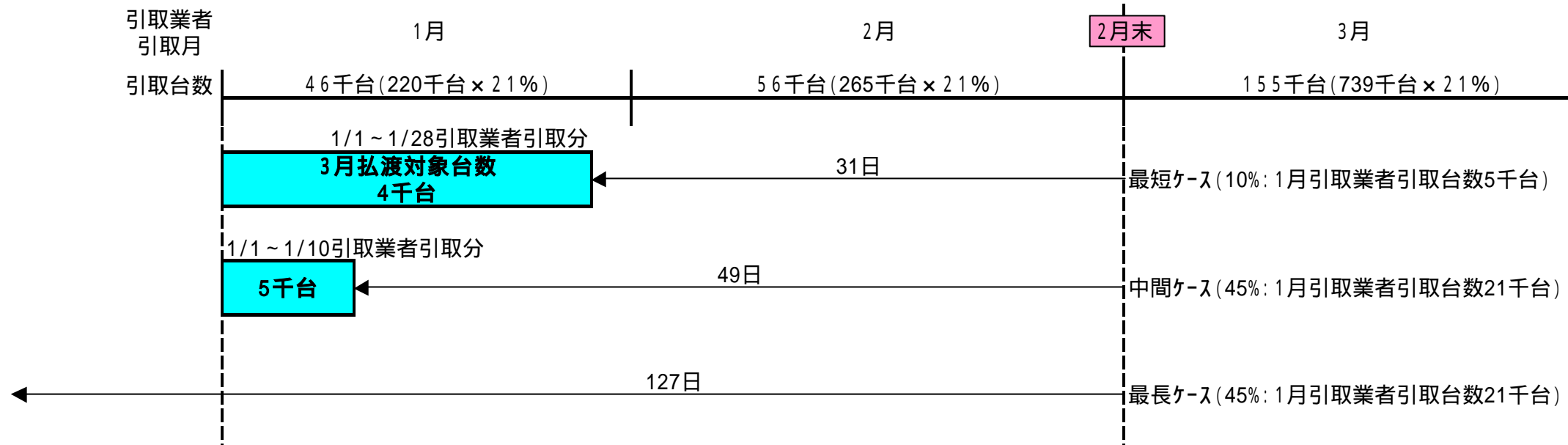
料金	ASR料金	エアバッグ類料金	フロン類料金	情報管理料金
必要な移動報告	ASRの引取報告	エアバッグ類の引取報告	フロン類の引取報告	破碎業者の引取報告
最短ケース(全体の10%)	38日(1月21日)	31日(1月28日)	30日(1月29日)	30日(1月29日)
中間ケース(全体の45%)	63日	49日(1月10日)	90日	47日(1月12日)
最長ケース(全体の45%)	160日	127日	210日	125日

(注)括弧内は、2月末までにそれぞれの移動報告を行うためには、いつまでに引取業者によって使用済自動車の引取が行われればよいかを計算したもの。

(1)ASR

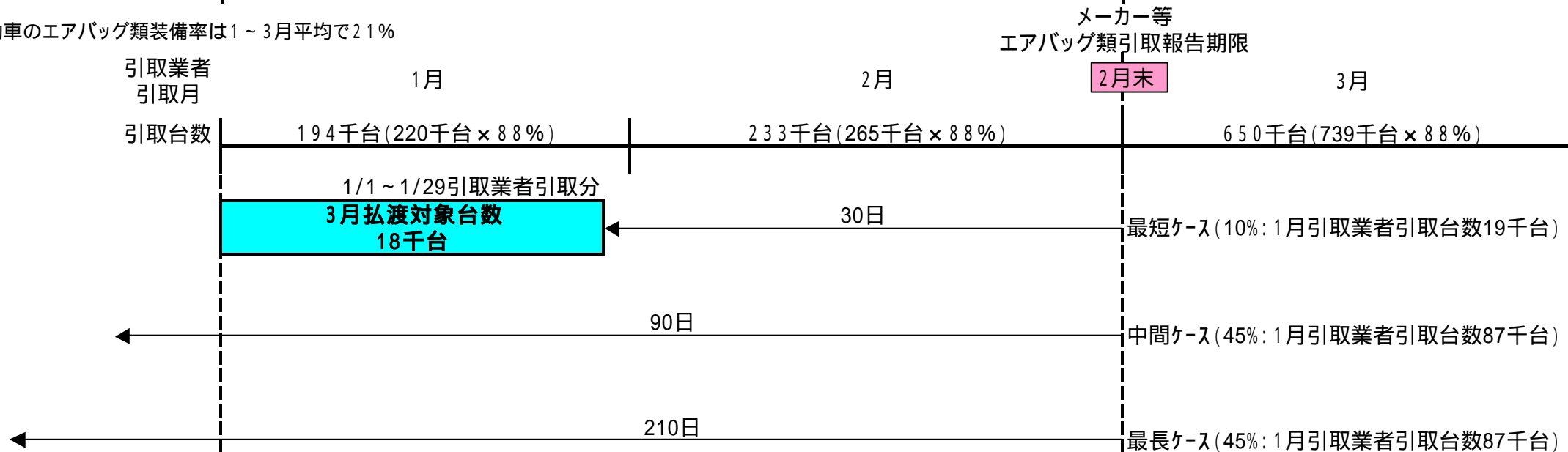


(2)エアバッグ類料金



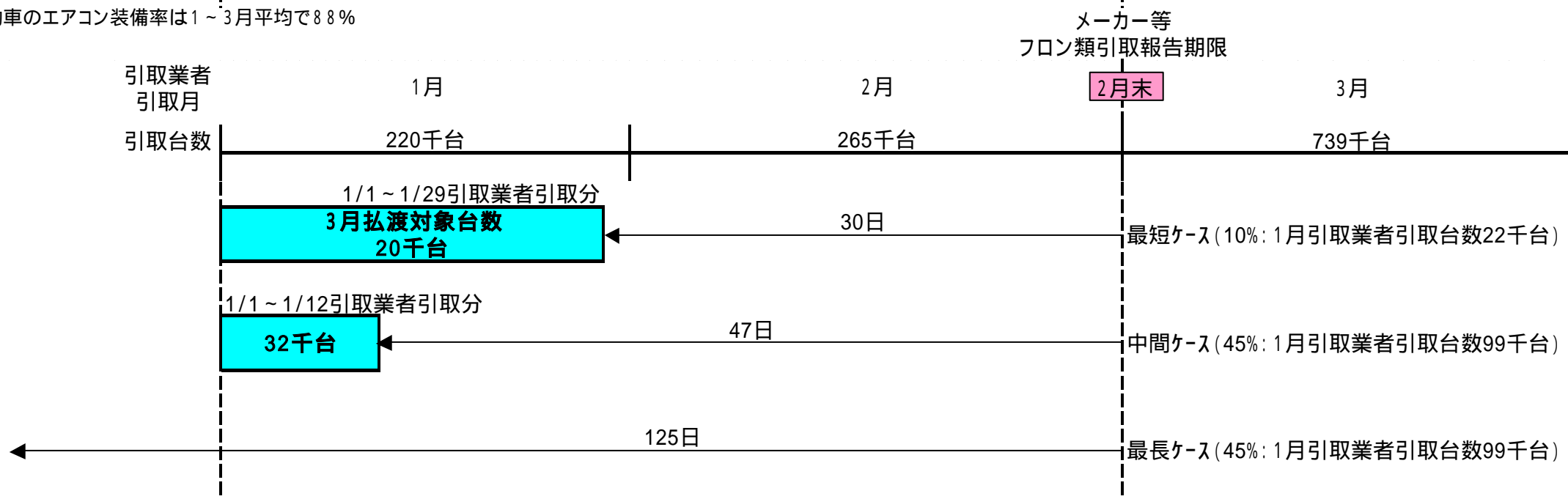
引取時預託される自動車のエアバッグ類装備率は1~3月平均で21%

(3)フロン類料金



引取時預託される自動車のエアコン装備率は1~3月平均で88%

(4)情報管理料金



情報管理センターは、破砕業者が解体自動車の引取報告した自動車について情報管理預託金の払渡しを請求できることとなっている。

破砕業者
引取報告期限

4. 「再資源化預託金等特定資産組入支出」の台数の考え方

再資源化預託金等は、センターに入金された時点で、運用のために、「再資源化預託金等特定資産組入支出」として支出。1～3月各月の預託台数及び預託方法別の入金のタイミングの変更に伴い修正するもの

預託方法別の入金対象台数及び入金額

< 予算作成時 >

	月	自動車台数		再資源化等預託金		情報管理預託金		(入金の備考)
		預託台数	入金台数	預託金額	入金額	預託金額	入金額	
新車購入時 預託	1月	50万台	0	99億円	0	0.6億円	0	
	2月	50万台	50万台	99億円	99億円	0.6億円	0.6億円	(1月預託分)
	3月	50万台	50万台	99億円	99億円	0.6億円	0.6億円	(2月預託分)
	1～3月計	149万台	100万台	298億円	199億円	1.9億円	1.2億円	
継続検査時等 預託	2月	261万台	0	523億円	0	3.3億円	0	
	3月	261万台	261万台	523億円	523億円	3.3億円	3.3億円	(2月預託分)
	1～3月計	523万台	261万台	1,045億円	523億円	6.5億円	3.3億円	
	1月	34万台	0	68億円	0	0.4億円	0	
引取時預託	2月	34万台	34万台	68億円	68億円	0.4億円	0.4億円	(1月預託分)
	3月	34万台	34万台	68億円	68億円	0.4億円	0.4億円	(2月預託分)
	1～3月計	103万台	68万台	205億円	137億円	1.3億円	0.9億円	
	1月	84万台	0	167億円	0	1.0億円	0	
合計	2月	345万台	84万台	690億円	167億円	4.3億円	1.0億円	
	3月	345万台	345万台	690億円	690億円	4.3億円	4.3億円	
	1～3月合計	774万台	429万台	1,549億円	858億円	9.7億円	5.4億円	

(端数処理: 台数は千台位を四捨五入。金額は、再資源化等預託金について千万円位を、情報管理預託金について百万円位を四捨五入。)

< 補正案 >

	月	送金方法	自動車台数		再資源化等預託金		情報管理預託金		(入金の備考)
			預託台数	入金台数	預託金額	入金額	預託金額	入金額	
新車購入時 預託	1月	口座振込	39万台	0	42億円	0	0.5億円	0	
	2月	同上	52万台	39万台	56億円	42億円	0.7億円	0.5億円	(1/1～1/31預託分)
	3月	同上	82万台	52万台	88億円	56億円	1.1億円	0.7億円	(2/1～2/28預託分)
	1～3月計		173万台	91万台	185億円	97億円	2.2億円	1.2億円	
継続検査時等 預託	2月	口座引落	264万台	0	243億円	0	3.4億円	0	
	3月	コンビニ	15万台	6万台	14億円	6億円	0.2億円	0.1億円	(2/1～2/10預託分)
		郵便局	5万台	5万台	5億円	5億円	0.1億円	0.1億円	(2/1～2/28預託分)
	3月	口座引落	420万台	139万台	390億円	128億円	5.5億円	1.8億円	(2/1～2/15預託分)
郵便局		24万台	21万台	23億円	20億円	0.3億円	0.3億円	(2/11～3/15預託分)	
1～3月計		737万台	180万台	682億円	165億円	9.6億円	2.3億円		
引取時預託	1月	口座引落	10万台	0	8億円	0	0.1億円	0	
	2月	コンビニ	9万台	4万台	7億円	3億円	0.1億円	0億円	(1/1～1/15預託分)
		郵便局	3万台	3万台	2億円	2億円	0億円	0億円	(1/1～1/31預託分)
	3月	口座引落	12万台	4万台	10億円	3億円	0.2億円	0.1億円	(1/1～1/15預託分)
郵便局		11万台	10万台	9億円	8億円	0.1億円	0.1億円	(1/16～2/10預託分)	
3月	口座引落	4万台	4万台	3億円	3億円	0億円	0億円	(2/1～2/28預託分)	
	郵便局	34万台	12万台	27億円	10億円	0.4億円	0.2億円	(1/16～2/15預託分)	
1～3月計		122万台	67万台	98億円	54億円	1.6億円	0.9億円		
合計	1月		61万台	7万台	60億円	5億円	0.8億円	0.1億円	
	2月		362万台	68万台	338億円	67億円	4.7億円	0.9億円	
	3月		608万台	263万台	567億円	245億円	7.9億円	3.4億円	
	1～3月合計		1,032万台	338万台	965億円	317億円	13.4億円	4.4億円	

(端数処理: 台数は千台位を四捨五入。金額は、再資源化等預託金について千万円位を、情報管理預託金について百万円位を四捨五入。)

新車購入時預託

予算作成時の考え方

預託月	1月	2月	3月
預託台数	50万台	50万台	50万台

入金対象 100万台

()入金時期: 当月の預託分は翌月末に入金される。

補正案での考え方

預託月	1月	2月	3月
預託台数	39万台	52万台	82万台

入金対象 91万台

()入金時期: 当月の預託分は翌月末に入金される。

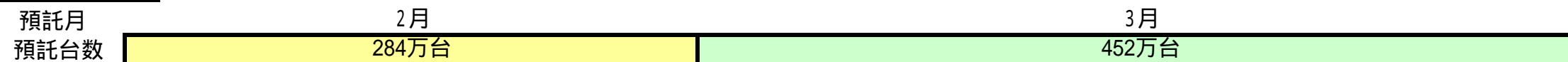
継続検査時等預託

予算作成時の考え方



入金対象 261万台
 ()入金時期: 預託日から1ヵ月後に入金される。

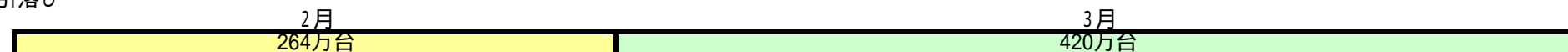
補正案での考え方



入金対象 159万台 入金対象 20万台
 ()入金時期: 送金方法により入金時期が異なる(詳細は、以下の「送金方法別内訳」を参照)。

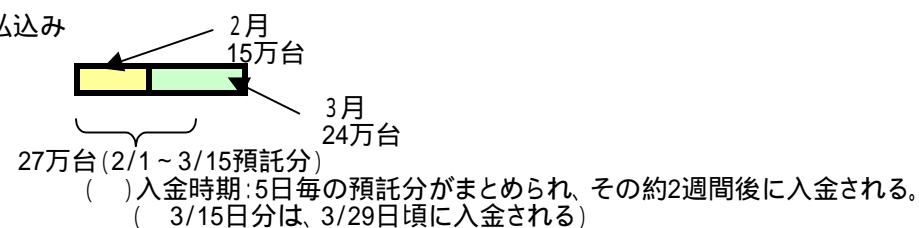
[送金方法別内訳]

(1) 金融機関口座引落し

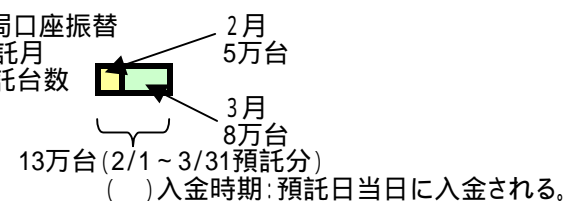


139万台(2/1~2/15預託分)
 ()入金時期: 1~15日の預託分を翌月10日に、16~末日分を翌月26日に口座引落を行い、その8営業日後に入金される。(2/15日分までが3/23日に入金される)

(2) コンビニ払込み

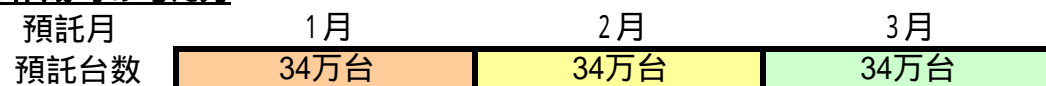


(3) 郵便局口座振替



引取時預託

予算作成時の考え方



入金対象 68万台
 ()入金時期: 預託日から1ヵ月後に入金される。

補正案での考え方



入金対象 22万台 入金対象 21万台 入金対象 25万台
 ()入金時期: 送金方法により入金時期が異なる(継続検査時等預託と同様の考え方)